3.5.　重量車電力消費率の算出

3.4.で算出したＤＣの消費電気エネルギーΔE_{REESSj}、走行距離及び別紙１の12.に規定する充電効率K_CからＤＣの電力消費率EC_{DCj}及びＡＣの電力消費率EC_{ACj}を算出する。

$$EC_{DCj}=\frac{\Delta E_{REESSj}}{\text{走行距離}}$$

$$EC_{ACj}=\frac{EC_{DCj}}{K_C}$$

なお、トルクコンバータ付自動変速機を有する自動車については、同じギヤ段数及びギヤ比を持つ手動変速機と見なして算出した電力消費率に、都市内走行モードの場合にあっては0.91を、都市間走行モードの場合にあっては0.96を乗じたものを当該自動車の電力消費率とすることができる。

得られた都市内走行モード及び都市間走行モードにおける電力消費率を3.6.に示す都市間走行割合に基づき次式により重量車電力消費率を算出する。

$$EC_{AC}=\frac{1}{\frac{1-\alpha/100}{EC_{ACu}}+\frac{\alpha/100}{EC_{ACh}}}$$

EC_{AC}：電気重量車ＡＣ電力消費率（Wh／km）

EC_{ACu}：都市内走行ＡＣ電力消費率（Wh／km）

EC_{ACh}：都市間走行ＡＣ電力消費率（Wh／km）

α：都市間走行割合（％）

3.6.　（略）

4.　パワートレーン法

4.1.・4.2.　（略）

4.3.　試験室

試験室の温度は試験前後やソーク前後は空調設定が23℃になっている状態であること。ただし、別紙２の2.6.の蓄電装置の充電効率試験と兼ねる場合、ソーク後の蓄電装置温度は25±５℃であること（以下、充電効率試験を兼ねる際において同じ。）。なお、温度測定箇所等は自動車製作者等により規定する。

4.4.　（略）

4.5.　電気重量車電力消費率試験の試験手順

4.5.1.　（略）

4.5.2.　パワートレーンの試験手順

4.5.2.1.　測定運転及び充電

システムを始動し、4.4.2.で規定した都市内走行モード及び都市間走行モードにより4.5.2.2.の項目について測定を行う運転（以下、「測定運転」という。）を行う。

この場合において、暖機運転後十分に減速エネルギーを回生できるＳＯＣ状態から測定運転を開始すること。

都市内走行モードにおいては、別紙２の2.6.4.の充電効率の測定（別紙２の2.6.4.の⑶については別紙２の2.6.4.の⑶の①において途中に都市内走行モードを実施する手法）に準じて試験を実施することにより、別紙２の2.6.の蓄電装置の充電効率試験と兼ねることができる。

3.5.　重量車電力消費率の算出

3.4.で選択したサイクルのＤＣの消費電気エネルギーΔE_{REESS}、走行距離及び別紙１の12.に規定する充電効率からＤＣの電力消費率EC_{DC}及びＡＣの電力消費率EC_{AC}を算出する。

$$EC_{DC}=\frac{\Delta E_{REESS}}{\text{走行距離}}$$

$$EC_{AC}=\frac{EC_{DC}}{K_C}$$

なお、トルクコンバータ付自動変速機を有する自動車については、同じギヤ段数及びギヤ比を持つ手動変速機と見なして算出した電力消費率に、都市内走行モードの場合にあっては0.91を、都市間走行モードの場合にあっては0.96を乗じたものを当該自動車の電力消費率とすることができる。

得られた都市内走行モード及び都市間走行モードにおける電力消費率を3.6.に示す都市間走行割合に基づき次式により重量車電力消費率を算出する。

$$EC_{AC}=\frac{1}{\frac{1-\alpha/100}{EC_{ACu}}+\frac{\alpha/100}{EC_{ACh}}}$$

EC_{AC}：電気重量車ＡＣ電力消費率（Wh／km）

EC_{ACu}：都市内走行ＡＣ電力消費率（Wh／km）

EC_{ACh}：都市間走行ＡＣ電力消費率（Wh／km）

α：都市間走行割合（％）

3.6.　（略）

4.　パワートレーン法

4.1.・4.2.　（略）

4.3.　試験室

試験室の温度は試験前後やソーク前後は空調設定が23℃になっている状態であること。

4.4.　（略）

4.5.　電気重量車電力消費率試験の試験手順

4.5.1.　（略）

4.5.2.　パワートレーンの試験手順

4.5.2.1.　測定運転及び充電

システムを始動し、4.4.2.で規定した都市内走行モード及び都市間走行モードにより4.5.2.2.の項目について測定を行う運転（以下、「測定運転」という。）を行う。

この場合において、暖機運転後十分に減速エネルギーを回生できるＳＯＣ状態から測定運転を開始すること。

都市内走行モードにおいては、パワートレーンがコールドの状態から運転を実施し、暖機運転後十分に減速エネルギーを回生できるＳＯＣ状態の蓄電装置放電深度から測定運転を開始すること。